

1 活動名 みてみて・わくわく みんなでおまつりたのしいよ！

2 活動のねらい

- ・自分の気に入った遊びを見つけ、試したり工夫したりしながらイメージを実現していこうとする。
- ・遊びの中で自分の発想を様々な方法で表現することを楽しむ。
- ・学級の友達とやりとりを楽しみながら、遊びのイメージをひろげていく。

3 保育の構想

(1) 資質・能力で捉えた子どもの姿

本学級は、男児6名、女児6名、計12名（うち2名9月より転入）の学級編制である。本学級の子どもを以下の3つの視点でとらえた。

① 「気付き・めあてをもつ姿」について

2学期は、園庭にある木の実や草花に興味をもち、発見を喜んでいた。見つけた木の実を「イヌマキは赤いと食べられるよ」「こわれたドングリは病院」などと言いながら、空き箱に分けたり、イメージや関心をもったりして遊ぶ姿がみられた。またごちそう作りでは、自然物を自分で集め取り入れて遊ぶ姿もみられる。

このことから、秋の自然物や、様々な素材に触れる経験を通して、色や形、大きさなどの違いや感触などに気付き遊びに取り入れようとしたり、「ころがしてみよう」や「もっとおいしい〇〇をつくろう。」などと、めあてをもって遊ぼうとしたりする意欲を育てたい。

② 「発想し、試す姿」について

遊びの中で、「あ、これ（卵パック）はドラゴンの背中になりそうだぞ」と発想を膨らませ遊びが展開していったり、「小さいお椀が欲しい」「混ぜる物ないかな」「この木を箸にすればいい」などと、したいことに思いを巡らせたり、時には教師に頼ったりして自分の遊びを実現しようとする姿がみられる。また、学級全体で楽しむ活動を取り入れると、活動ひとつひとつを喜び、自分の思いを自分なりに表現しながら楽しみ、自分たちの発想でルールを作ったり、思いを伝え合ったりして遊ぶ姿がみられた。また、年長児と一緒に遊ぶ中で年長児に触発され泥団子作りを楽しみ、年長児がどのようにしていたのか、どこの砂を使って遊んでいたのかを自分たちなりに取り入れて試すなどの姿がみられる。

このことから、子ども達には、子どもらしい発想力や想像力で、試行錯誤したり、友達のアイデアを取り入れたりしながら、自分の遊びに面白さを感じ、継続して遊びを楽しむ意欲を育てたい。

③ 「協同する姿」について

友達とのかかわりにおいて、自分の思いを表現できる子ども、様子をじっくりと見ている子ども、思いをため込む子どもなど様々であり、友達とのかかわり方も様々である。気持ちのすれ違いや、一方的な思い込みなどによるトラブルがみられることも多くあるが、「一緒にしよう」「こっちが空いているから一緒に座ろう」などと、少しずつ友達を受け入

れる気持ちももてるようになってきた。遊びを振り返る場面において、自分の思いが受け入れられたり、友達の遊びを知ったりする中で、満足感を味わい、継続して遊びを楽しむ姿勢がみられる。

このことから、まずは、一人一人が遊びの楽しさを感じながら、少しずつ遊びがつながっていく過程を大切にする。その上で、多様な感情の交流を通して、めあてに向けて思いや考えを伝えたりしながら友達と一緒に作ったり、友達と居心地の良さを感じたり、気持ちを合わせたりしながら遊ぶ意欲を育てたい。

(2) 資質・能力を育むための教師の援助

「こどもまつり」に向かう活動では（年少4期）、子ども達一人一人が自分なりのめあてをもち、遊びの中で、考えたり工夫したりし、遊びのイメージを膨らませながら自分の遊びを実現しようとする姿が期待出来る。また、友達とのやりとりを通して、人と関わる喜びを味わい、自分と友達と思いを出し合い、自分たちなりの遊びをつくっていくことが期待出来る。自分なりの表現を友達や教師に認めてもらう経験を繰り返す中で、自信や満足感をもち、「自分の遊びをみんなで一緒に楽しみたい。」と遊びを楽しもうとする姿を期待する。

活動を構想するにあたっては、「気付き・めあてをもつ姿」「発想し、試す姿」「協同する姿」の資質・能力が現れている姿として以下のことを大切にしていく。

○「気付き・めあてをもつ姿」については、子ども達の言葉をよく聞いたり、表情をみたりして、子どもがどのように遊び、どんなことに気付きやめあてをもち発見を楽しんでいるのか、またどのように予想しているのか等を丁寧に見取っていく。子どものイメージしたものを実現したり、十分に思いを発揮して遊んだりすることが出来るように材料や自然物を準備する。子どもの気付きを引き出したり、その遊びがどう発展していくのかの見通しをもたせたり出来るよう、問いかけの援助をし、一緒に考えていく。また、友達の遊びや発見したことや気付き等に関心ももてるようマップを作ったり、作った物を使って遊ぶ場を設定したりする。

○「発想し、試す姿」については、アイデア豊かに遊びを楽しめるよう、遊びのきっかけになるような様々な材料をタイミングよく出せるよう準備しておく。遊びの面白さを見つけ、発想したり試したりする過程を認め価値付けることで子どもの満足感や自信につなげ、さらに継続して遊びを楽しめるように支えていく。

○「協同する姿」については、一人一人の遊び方、気持ちの表し方、物事の感じ方など、一人一人の気持ちを丁寧に受け止め、まずは子ども一人一人がじっくり遊んでいけるようにする。その上で、友達を意識しながらかわりあえるよう、教師も一緒に遊んだり、きっかけをつくったり橋渡しをしたりしていく。また、必要に応じて別の場で遊んでいる友達にも気持ちが向くように、友達とやりとりしたり、思いを受け入れたりする姿を認め、子どもの思いをつなげていく。学級で話し合いの場をもち、友達や教師に認められる経験を通して、自分の遊びが価値付けられたり、受け入れられる喜びを味わったりし、遊びへの期待感や見通し、意欲ももてるようにする。

4 展開計画

	ねらいと内容	◇資質・能力で捉えた子どもの姿
10月3週～10月5週	<ul style="list-style-type: none"> ○「やりたい」が見つけれられる環境の中で、遊びを楽しむ。 ・身近な自然に触れ、遊びに取り入れたり、いろいろなことに気付いたりする。 ・園庭の木の实や落ち葉を見つけ、集める。 ・みつけた自然物を使って遊ぶ。 ・木登りや草すべり等心地よい気候の中で体を十分に動かして遊ぶ。 ○様々な素材に触れ、遊びに取り入れようとする。 ・小学校の先生と段ボールで遊ぶ。 ・様々な素材を使って遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇夏の園庭との違いに気付き、秋の自然に興味をもつ姿 ◇秋の自然物を使って遊ぼうとする姿 ◇様々な素材に触れ、自分のイメージに合わせ、遊びに取り入れようとする姿 ◇お店屋さんごっこに興味をもつ姿
11月1週～2週	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いやイメージを様々に表して遊ぶことを楽しむ。 ・お店屋さんごっこ、アイドルごっこ等のごっこ遊びを楽しむ。 ・遊びに必要な物を考えながら作る。 ・一緒に遊んでいる友だちと、どんなことをするか等やりとりしながら考える。 ○発見、驚き、感動などの体験から、経験したことを楽しみながら遊ぶ。 ・近所のパン屋さんに買い物に行き、遊びの中でパン作りやお店屋さんごっこをする。 ・干し柿作りややきいもパーティを遊びに取り入れ、ごっこ遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分なりにイメージを広げ、やりたいことを考える姿 ◇具体的なイメージをもち、遊びに必要な物を作ろうとする姿 ◇自分の思いや考えを友だちに伝えたり、友だちの思いを受け入れたりする等、やりとりしながら遊ぶ姿
11月3週～12月1週(含本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のしたいことを楽しみ、遊びの中で友だちとやりとりをしながらイメージを共有していく楽しさを味わう。 ・自分の思いやイメージにあった物や場を作って遊ぶ。 ・自分の思いや考えを友だちに伝えたり、友だちの話を聞いたりしながら遊ぶ。 ○自分たちで作った遊びを、家の人や友だちにどう楽しんでもらうかを考えながら遊ぶ。 ・園全体が「こどもまつり」の雰囲気になることで、「こどもまつり」をイメージしながら遊ぶ。 ・お家の人に見てもらうことを楽しみにしながら、さらに遊びを進めていく。 ○こどもまつりでお家の人や友だちに見てもらえたことを喜び、満足感をもちながら自分たちが終止感をもつまで遊びを続けていく(遊びきる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇友だちとのやりとりの中で、イメージを共有して自分なりの役割をもって遊ぶ姿 ◇自分たちで作ったものを試しながら遊び、より楽しめるように工夫していく姿 ◇自分たち遊びを作っていく中で、自信をもち遊ぼうとする姿。 ◇いろいろな友だちや家の人にも遊んでほしいと、他者を意識しながら作ったり、場を整えたり、遊んだりする姿 ◇こどもまつりを振り返って、自分が経験したことを言葉で表現する姿 ◇充実感を味わいながら、自分たちの店や活動を満足するまで続ける姿